

最新手術支援ロボット「ダ・ヴィンチXi」の導入について

消化器外科 診療科長 ひらはら のりゆき
 平原 典幸

腹腔鏡手術における手術支援ロボットの登場は、従来の腹腔手術よりも複雑で精密な手術手技を実現しました。ロボット支援手術は腹腔鏡手術の利点をさらに向上させる次世代医療の一端を担う分野であり、より安全で侵襲の少ない手術が可能となりました。

ダ・ヴィンチ手術の特徴



- ① 腹腔鏡手術を支援する3つのコンポーネント（術者が3D画像を見ながらアームを操作するサージョンコンソール、患者サイドで鉗子操作を行うペイシャントカート、画像を提供するビジョンカート）がネットワーク接続されたシステムです。
- ② 可動域・到達域の大きな関節を有するロボットアームによる、手ぶれの少ない、精緻で安全な手術が可能となりました。
- ③ より高画質な3D映像が得られ、立体感のある広範囲の術野を展開できる。

これまでにダ・ヴィンチSを用いて早期胃癌を対象に14例の幽門側胃切除術、1例の噴門側胃切除術を施行しましたが大きな合併症は認めておらず、全例無再発生存中です。

2018年4月から消化器外科領域では胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術、腹腔鏡下胃切除術、腹腔鏡下直腸切除・切断術が保険収載されたため早期癌を対象に積極的にダ・ヴィンチXiを用いたロボット手術を導入し、短期および長期成績を評価していく予定です。

ロボットという“冷たい響き”ではなく、より人間の動きに近い手で行える、患者さんにとって“優しい手術”を提供することが期待されます。

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

3月15日～4月14日

対象者： 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名・講師名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
3/15(木) 9:30~11:30	平成29年度 島根県がんピアサポーター相談会	外来・中央診療棟3階 カンファレンスルーム「だんだん」	一般	島根大学病院
3/16(金) 15:30~16:30	平成29年度 第4回 肝臓病教室 肝臓専門医 佐藤 秀一 先生	みらい棟4階 ギャラクシー	一般	医学部附属病院(島根県 肝疾患診療連携拠点病院)
3/16(金) 16:30~17:30	平成29年度 第4回 家族支援講座 薬剤部 中村 健志 氏	みらい棟4階 ギャラクシー	一般	医学部附属病院(島根県 肝疾患診療連携拠点病院)
3/16(金) 18:00~19:30	平成29年度 指導医・研修医講習会(セミナー) 「謙虚な救急外来診療ー救急外来で大切なことー」 順天堂大学医学部 附属練馬病院救急・ 集中治療科 坂本 壮 先生	医学部講義棟 1階 「国際交流ラウンジ」	医療 本学	卒後臨床研修センター 専門研修等部門
3/22(木) 18:00~	第120回病態生化学セミナー 家族性地中海熱 の多角的な解析: 遺伝子、インフラマソーム、創薬 長崎大学大学院 教授 川上 純 先生	医学部図書館 3階 視聴覚室	医療 本学	医学部病態生化学 浦野 健
3/22(木) 18:30~19:30	第4回臨床検査セミナー「検査部における災害対策について -2016年熊本地震の経験をふまえて-」 熊本保健科学大学 教授 池田 勝義 先生	外来・中央診療棟3階 カンファレンスルーム「だんだん」	医療 本学	医学部附属病院検査部

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



NEWS



高瀬川流しびな

CONTENTS

- ・ 島根大学医学部附属病院医師派遣検討委員会の活動報告
2018年4月の医師派遣計画
- ・ 島根大学が展開するがんのゲノム医療
- ・ 最新手術支援ロボット「ダ・ヴィンチXi」の導入について
- ・ 島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

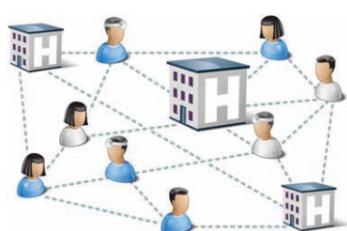
島根大学医学部附属病院医師派遣検討委員会の活動報告 2018年4月の医師派遣計画

病院長 いがわ みきお
井川 幹夫

県内医療機関への医師派遣は、当院の重要な機能・役割であり、地域の医師需要、県内勤務医師実態調査、院内の各診療科医師の適正数に関するデータに基づき、透明性の高い医師派遣を実施するため、2015年11月に島根大学医学部附属病院医師派遣検討委員会（以下、委員会）を設置しています。2018年度当初の医師派遣計画について、中間報告は病院ニュース1月号に掲載しております。今回は2月の委員会で決定した常勤医の最終派遣計画案を報告いたします。

国立大学病院管理会計システムHOMAS2を活用して算出した医師人件費、英語論文数で評価した臨床研究実績などに基づいて推計した当院各科の適正医師数と次年度入局予定者数を勘案した診療科別の派遣可能医師数を参照し、2017年末に各医療機関からいただいた2018年度の常勤医の派遣要望について派遣の可否を決定しました。2018年度当初の医師派遣見込み数は、39人（増員17、補充6、交替15、研修1）で、2017年度当初の25人より14人増加しています。診療科別の派遣医師数見込み一覧を表に示しています。2017年度の派遣実績は年度途中の派遣医師数17人を加えて、42人ですが、2018年度の医師派遣総数が前年度を上回ることを期待しています。

今後県、しまね地域医療支援センターと密接な連携の下に、各圏域の医療必要度と医師の年齢を考慮し、2018年度からスタートする新専門医制度に則った専攻医の病院間ローテーションおよび地域枠等出身医師の義務履行に配慮した医師派遣を行う予定です。次年度以降も全国的に例のない、データに基づいた客観的で透明性の高い医師派遣を継続することにより、医師の地域偏在の是正等に貢献するべく努力しますので、医療機関の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。



診療科等	派遣対象時期 派遣形態	H30.4.1付			内訳				小計
		要請(人)	応諾	(割合%)	増員	補充	交替	研修	
内分泌代謝内科	常勤	7	3	(43)	3				3
腫瘍・血液内科	常勤	5	1	(20)	1				1
消化器内科	常勤	10	5	(50)	3		2		5
神経内科	常勤	8	3	(38)	1		2		3
膠原病内科	常勤	1	0	(0)					
呼吸器・化学療法内科	常勤	4	0	(0)					
腎臓内科	常勤	4	3	(75)	3				3
循環器内科	常勤	2	1	(50)			1		1
皮膚科	常勤	1	1	(100)			1		1
小児科	常勤	7	1	(14)		1			1
消化器外科	常勤	6	2	(33)		1	1		2
小児外科	常勤	2	1	(50)	1				1
乳腺・内分泌外科	常勤	1	0	(0)					
心臓血管外科	常勤	1	0	(0)					
整形外科	常勤	10	5	(50)	2	1	2		5
リハビリテーション科	常勤	6	0	(0)					
脳神経外科	常勤	2	1	(50)			1		1
泌尿器科	常勤	5	2	(40)		1	1		2
精神科神経科	常勤	4	2	(50)	1			1	2
産科婦人科	常勤	6	3	(50)		2	1		3
眼科	常勤	3	0	(0)					
放射線科	常勤	2	1	(50)			1		1
麻酔科	常勤	11	3	(27)	2		1		3
歯科口腔外科	常勤	3	1	(33)			1		1
総合医療学講座	常勤	3	0	(0)					
救命救急センター	常勤	2	0	(0)					
病理診断科	常勤	1	0	(0)					
		117	39	(33)	17	6	15	1	39

派遣に関する用語の説明
 増員派遣 新規診療科の設置又は既設診療科の機能強化
 補充派遣 既設診療科の維持
 交替派遣 人事の流動化
 研修派遣 新専門医プログラムに基づいた派遣

島根大学が展開するがんのゲノム医療

産婦人科 教授 きょう さとる
京 哲

がんは遺伝子の病気です。遺伝子に傷が入り、その働きが異常になることで発症します。遺伝子のDNA塩基配列による遺伝情報のことをゲノムと総称しますので、がんはゲノムの異常により発生するわけです。次世代シーケンサーの登場により、人のゲノムは容易に解読（解析）できるようになりました。ゲノムを解析することで、個々人のがんの原因となっている遺伝子の異常がわかります。通常、それは「変異」といわれる塩基配列の異常で、これにより本来の遺伝子の機能が大きく変わります。この変異遺伝子のがん遺伝子と呼びます。がん遺伝子は、本来の遺伝子の働きを逸脱して細胞を過度に増殖させ、細胞をがん化させ、浸潤、転移を誘導しているのです。そのがん遺伝子の働きをピンポイントで抑える阻害剤が分子標的治療薬といわれるものです。分子標的治療薬は、従来の抗がん剤とは異なり、変異した遺伝子だけに作用しますから、正常の細胞には作用せず、副作用が少ないのが特徴です。

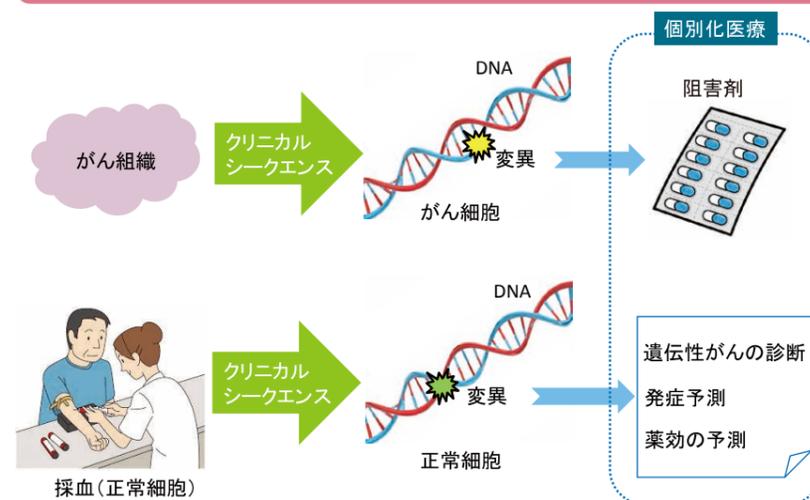
これまではヒトのがん組織のゲノム解析は、実験室で研究として行われてきたに過ぎませんでした。しかし、次世代シーケンサーの汎用化により、手術や検査で得られたヒトのがん組織のゲノムを解析する「クリニカルシーケンス」の臨床応用が実現し、当院でも開始しております。クリニカルシーケンスを行う事で、患者さんのがんの遺伝子の異常が明らかになり、有効な分子標的治療薬（阻害剤）が決まります（図）。このような分子標的治療薬により、通常の抗がん剤では無効であった再発、難治性のがん患者さんのがんが縮小したり、その増殖が抑えられたりするケースが報告されています。

通常の抗がん剤治療は、同じがん種の患者さんには同じ抗がん剤を用いるわけですが、遺伝子の異常は患者さんごとに異なるので、個別の分子標的治療薬を用いることになります。これを個別化治療と呼びます。

がんのクリニカルシーケンスはもう一つの重要な意味を持っています。それは生まれつき正常な細胞に入っている変異も見つけることです。このような変異は germline 変異と呼び、体質の異常や薬の効きやすさ、遺伝性のがんの原因となります。クリニカルシーケンスによってこれを未然に発見し、発がん抑制による個別化予防や薬に対する副作用予防、あるいは薬剤の効果予測までもが可能となるのです（図）。

がんのゲノム医療はすでに始まっています。クリニカルシーケンスによって得られる膨大なゲノム情報は、いずれ人工知能（AI）により瞬時に解析され、患者さん個々に合ったベストの個別化医療が提供されるようになることでしょう。当院はがんのゲノム医療の最先端を目指して努力を重ねて行きます。

がんのクリニカルシーケンスによる個別化医療





ご報告



敷地内院外薬局

「日本調剤 島大薬局」がオープンしました

去る3月1日、当院に敷地内院外薬局「日本調剤 島大薬局」がオープンしました。

敷地内薬局は、患者さんの利便性向上などの観点から、厚生労働省の規制改革会議が薬局の構造上の独立性について規制緩和を求め、2016年10月1日から制度として運用が始まったものです。

当院においても、多くのご高齢やお身体の不自由な患者さんへ利便性の高い施設・設備や安心・安全なサービスの提供をすることや地域の皆さんへより質の高い医療サービスを提供するという観点から導入を決定したものです。

薬局は、病院玄関バスのりば後方の「愛称 ゼブラ棟」の1階に位置しており、無菌調剤室を設置、在宅専任薬剤師や外来がん治療認定薬剤師の配置を予定など、高度医療を担う当院に相応しい高度な薬学管理機能が提供できるとともに地域包括ケアシステムの推進にも寄与できるようになっています。

また、薬の待ち時間やバス等の待ち時間に快適なスペースを提供し、患者さん等に安らぎの場所として利用できるようになっています。

当院は、これからも地域の医療機関と連携を強化し、地域の皆様に安全・安心で高度な医療を提供してまいりますので、今後ともご支援ご協力の程よろしくお願ひします。



お知らせ

院内ミニ講座

「ちょっと気になる健康講座」200回を突破！

当院で健康講座を毎週開催していることをご存じですか？

院内ミニ講座「ちょっと気になる健康講座」は、来院される患者さんや一般市民の方へのサービス提供事業として、外来ロビーを会場に、毎週木曜日11:00～11:30(30分間)開催しています。平成25年11月の開始から5年目となり、本年1月に記念すべき200回を迎えました。

当講座では、毎回異なる診療科の医師・看護師・メディカルスタッフたちが講師を務め、モニター画像や模型・医療器具などを活用しながら、最新の治療法や日常生活での健康増進法などをわかりやすく解説しています。

病気の原因、治療のポイントや、最新の研究・技術なども紹介し、終了後は講師が参加者の質問に答えます。患者さんや一般市民の方にとっては、普段接することが少ない診療科の医師やメディカルスタッフから直接話が聞ける機会でもあり、当院の医療をより身近に感じていただけます。

毎回15名程度の参加者があり、リピーターも多く、この講座を聴くために来院される方もいらっしゃいます。

申込不要・参加費無料・途中入退席自由です。どうぞお気軽にお立ち寄りください。

「もっと気になる心不全講座」予定表

回数	開催日	時間	担当部署	講師	テーマ
第211回	4月5日(木)		循環器内科	大内 武 医師	もっと気になる心不全① ～心不全とは?～
第215回	5月10日(木)	11:00	リハビリテーション部	今岡 圭 理学療法士	もっと気になる心不全② ～運動して体に良い効果～
第219回	6月7日(木)	}	薬剤部	三浦 佳江 薬剤師	もっと気になる心不全③ ～薬何飲んでるの?～
第223回	7月5日(木)	11:30	看護部(循環器)	大矢 菜穂子 看護師	もっと気になる心不全④ ～大切な生活管理のこと～
第227回	8月2日(木)		栄養治療室	栄養管理士	もっと気になる心不全⑤ ～美味しく減塩～

来年度は4月～8月の第1週目に5回連続「もっと気になる心不全」を開催します。心不全について詳しく解説します。



第167回 リハビリテーション部 佐藤 千晃
「在宅での介護が楽になる!～便利な福祉用具の紹介～」
ベッド・介護用品を用いて在宅での介護方法を紹介



第195回 歯科口腔外科 服部 政義
「お口の病気シリーズ(6) ～歯周病と全身疾患～」
第203回 脳神経外科 中川 史生
『寝たきりの原因 第1位「脳卒中」』



1年間の講座をまとめた「島大病院ちょっと気になる健康講座」は第1～3巻を書店にて好評販売中です。本年3月下旬に第4巻を発刊いたします。ぜひご覧ください。





島大病院ニュース 2018年3月

ご報告

院内保育施設 「うさぎ保育所」2月の行事から

うさぎ保育所



節分会

「今年こそは鬼を退治しよう!」とみんなで力を合わせた節分会。

鬼の苦手なものを調べ、画用紙で作った柵とイワシをロープにつけて結界を張ったり、豆を投げる練習もして準備は万全。当日は、赤鬼、青鬼が登場、泣きそうだった子ども達もこの結界のおかげで、勇気を振り絞って豆を投げ、鬼を追い払うことができました。



発表会

4歳児クラスは「七ひきのこやぎ」、歌ったり踊ったりすることが大好きな気持ちが溢れた素敵な劇遊びでした。5歳児クラスは「美女と野獣」、ミュージカル風の劇で次々と配役を交代しながら、どの子もかなりの表現力で演じる場面はさすが年長組。うさぎ保育所最後の発表会は会場が拍手と感動で包まれました。

どのクラスの子もこの1年で成長した姿を見ていただき、そしてそれをお家の方にたっぷり褒めてもらって大満足の発表会となりました。



島大病院ニュース 2018年3月

ご報告



次世代の看護管理者の育成を考えた 副看護師長研修



看護部長 神田 かんた
まりこ 眞理子

看護部では、看護師長の補佐役であり後輩指導を担う副看護師長がその役割を認識し、病院の理念・方針、看護部の目標に沿った行動ができることを目的に副看護師長研修を開催しています。今年度第1回は、特定社会保険労務士の方から労務管理の基礎知識について講義を受け、副看護師長としてのあるべき姿に向かって今後労務管理を行っていくことをテーマにグループワークを行いました。他部署の副看護師長の思いや頑張りが出て参考になった、悩みが共有できた、時間を意識して働く風土作りをめざしたい等の意見がありました。第2回は、先輩の看護師長・副看護師長から『看護の伝承：看護について大事にしていきたいこと、伝えたいこと』をテーマに語ってもらいました。そして自分自身の行動を振り返りながら、今後副看護師長として組織の中で役割を果たすにはどう行動していくか話し合いました。先輩看護師が患者さん中心の寄り添う看護をぶれることなく実践してきたことや、現状は語りが少なくなっていると感じる中、もっともっと自ら語っていくことの大切さを感じた、自分の弱みと想っていたこともポジティブに捉えることができた等の意見がありました。

常に課題解決を求められる看護管理者は、対人関係能力、社会や病院の状況等を考え、将来を予測し患者さんに対する安全・安楽と、適切な医療・看護の提供やスタッフが働きやすい職場環境の整備、医療の質の向上をめざしたスタッフの育成の取組み等が必要です。副看護師長の研修は、次世代を担っていく看護管理者を育成していくうえで重要であると思います。



平成30年3月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063

◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



平成30年3月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063

◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





ご報告



重度障がい者のコミュニケーション支援に向けた “新しい”入力装置の実用化に向けた研究

リハビリテーション部 主任作業療法士 もりわき しげと
森脇 繁登

もしあなたが、「手足が動かない」、「声をだすことができない」となったら、どのように想いを相手に伝えますか？
リハビリテーション部では、このような重度障がいにおけるコミュニケーション支援を行っており、障がい者個々の姿勢にあった適切な工夫が必要となります。今回、我々は視線(眼球の動き)で文字を入力するための新しいデバイスTobii Eye X(トビー アイ エックス)を用いて、姿勢に応じたパソコン操作性の違いについて検証しました。その結果、姿勢に応じて5分間で最大15文字数の差が生じ、さらに不良姿勢では唾液アミラーゼによるストレス指標が有意に増悪することが明らかとなりました。15文字あれば「こしがいたい(6文字)」、「てがかゆい(5文字)」など、当事者が日常生活で使う単語を多く伝えられることとなります。

本研究により、適切な姿勢で操作を行うことは、ストレスなく意思を伝えるための重要な要因であることを示したものとなりました。引き続き、実用化を達成するための支援方法について、訓練方法の構築を含めさらに研究を進めて参ります。

なお、本研究は島根大学医学部附属病院 病院医学教育研究助成により実施され、島根大学総合理工学部 助教 伊藤史人先生の協力を得て行いました。



ご報告



e-learningによる医療安全のための 必須研修会実施について

医療安全管理部 部長 もりた えいしん
森田 栄伸

平成28年6月に医療法施行規則が一部改正され、特定機能病院の承認要件の見直しが行われました。その中でe-learningなどを活用した研修実施後の学習効果測定の実施が義務化され、当院でも新たにe-learningを導入し研修を開始しました。

当院では病院医学教育研究助成金を基に、ELSEVIER社が提供しているSafety Plusを購入し、実施いたしました(図参照)。e-learning研修は動画講義を受講後、課題テストを実施し、課題テスト合格で受講完了となります。平成28年度は「医療安全の基本を知る」の課題を設定し実施しました。平成29年度は「コンフリクトマネジメント(紛争発見時の対応)」、「搬送時の患者取り違え」の2つの課題を設定し実施しました。受講率は平成28年度が86.1%、平成29年度が95.2%でした。

e-learning研修の受講者側のメリットは、好きな時間に受講できること、インターネット環境があれば学外でも受講できること、時間や場所の制約を受けずに受講できることです。受講者は理解度に合わせて何度も繰り返し学ぶことができ、また他の教材も自己学習が可能で、高い教育効果が期待できます。病院側のメリットとして受講者の理解度や進捗度の把握ができ、効果的にフォローアップができます。今後も医療安全のための研修会にe-learningを活用し、効果的な医療安全教育を行っていききたいと思います。

実施の方法



コース一覧		課題一覧			
課題名	開始日	終了日	状況		
平成28年度 第3回医療安全のための研修会【必須研修】	2016/12/07	2017/03/28	契約中		
コース名	カテゴリ	実施日	点数	完了状況	操作
B-4 医療安全の基本を知る(動画講義)	その他	--	--	--	受講





ご報告

手指衛生啓発ポスターを募集し、応募作品入賞者の表彰式を行いました

感染制御部 部長 **もりた えいしん**
森田 栄伸

当院では院内感染防止対策活動として、予防策の遵守や抗菌薬の適正使用、各種サーベイランス等を実施しています。中でも、手指衛生は感染防止対策の重要なポイントです。病院玄関および病室入口にアルコール手指消毒剤を配置し、職員も携帯用アルコールを携行して手指衛生を推奨しています。

感染制御部では、昨年11月に手指衛生を遵守するための啓発策として、手指衛生キャンペーンを開催しました。手指衛生のポスターを募集し、作品を院内掲示して職員のみなさんに投票して頂きました。結果、5名が入選され、感染対策委員会で表彰式を行いました。ポスターは、順次、院内に掲示していきますので、ご覧になって下さい。



井川病院長賞
深ヶ迫 礼華 さん



森田感染制御部長賞
佐藤 秀一 さん



佐野ICTリーダー賞
城 有美 さん



神田看護部長賞
栗原 奈々 さん



ICT賞
福原 翔 さん



当院では、今後も引き続き院内感染防止に取り組んでまいります。



ご報告

(ポスター発表賞) 日野原重明賞をいただきました

医療サービス課 医師クラーク(歯科口腔外科) **わた さとみ**
和田 智美

2月18日、日本医療秘書学会第十五回学術大会に出席し、ポスター発表「大学病院における医師事務作業補助者とは～当科での活用効果に関する定量的検討により明らかとなったこと～」を行いました。

平成29年、歯科口腔外科での医師事務作業補助者の活用効果について、定量的に検討をした研究論文を発表しました。今回の発表では、その論文内容に新たな実績を加え、「診療」、「教育」、「研究」、「地域・社会貢献」という大学病院が持つ4つの機能に着目しました。そして医師事務作業補助者の活用が、その機能全ての維持と向上に有益であることを明らかにしました。この発表で、名誉ある日野原重明賞(ポスター発表賞)をいただきました。

当院の病院医学研究助成により、一人の医師事務作業補助者(当院呼称・医師クラーク)に育てていただきました。井川病院長、渡部医療サービス課長に心よりお礼を申し上げます。

